

# 郷土かみのかわの歴史・文化財

## 町指定文化財 野外石仏地蔵

常光坊の墓地にある古墳上に、石で作られた大きなお地藏さんがあります。ひときわ目を引くその大きさは、台座を合わせたと2.4m、本体だけでも2mにも及ぶものです。作られた年代について詳しくはわかっていませんが、町内最大の石仏で、彫刻の技術も優れていることから、昭和50年に「野外石仏地蔵」として町文化財に指定されています。実はこの石仏は、元からこの地に置かれていたわけではなく、ここに至るには、明治維新の社会の激変が大きく関係しているのです。

上三川の中心市街地には南北に結城より宇都宮へ至る街道が、鎌倉時代以前から走っており、これに沿うように町が発展しました。北辺には白鷺神社があり、今でこそ道路になっていますが、南に向かって普門寺の東側まで街道に沿うように参道が続いて

おり、現在神社の西にある町指定文化財の鳥居が、一の鳥居として立っていたのでした。そして一の鳥居の側に、この石仏もたたずんでいたのです。しかし、260年にわたる江戸時代が終焉を迎え、明治という新しい時代になると、社会のシステムが大きく変化したのです。新政府は、神道を国の宗教とするため、長い時代の間

に融合していた神道と仏教を明確に分離するため、神社にあった仏具や仏像を取り除き、神仏習合の伝統を排除したのです。この政策は、各地で寺院や仏像・仏具を破壊する運動を巻き起こし、日本の寺院の半数が無くなったと言われています。当然、上三川の地にも廃仏毀

何とかしてこの石仏を守ろうと、

白鷺神社の参道から、常光坊の地に秘かに移したと考えられています。実は参道にあった石仏はこれ一つではなく、他に二体もありました。その二体も参道から移され、一つは桃畑に、一つは東館に移され現存しています。社会が大きく変わった明治維新。この大きな渦に巻き込まれ、人生が変わった人々がたくさんいたことでしょう。その一方で、長い年月にわたって受け継がれてきた多くの文化遺産も、被害にあつたのです。野外石仏地蔵は、壊すことなく大事にした人々の優しさを現在に伝えると共に、貴重な文化遺産を残すことの大

事を現在に伝えていきます。

**町巡回バス最寄りバス停**  
上三川路線(ピンクのバス)常光坊



野外石仏地蔵

明治時代				江戸時代											時代				
1872	1871	1870	1869															西暦	
明治5	明治4	明治3	明治2															元号	
東京・宇都宮間運輸馬車会社が開業する。(所要時間15時間)	政府、戸籍法を制定する。	この年、東京日本橋付近で人力車の営業が始まる。	横浜・東京間に乗合馬車が開業する。	江戸が東京と改称される	真岡代官所が肥前藩土島岡右衛門率いる土佐藩兵に襲撃され、山内源七郎などが討ち取られ、陣屋は焼き払われる。	西郷隆盛・勝海舟により江戸城が無血開城。	河内郡の百姓らが近在の質屋・酒造家などの有徳人宅を打ち壊す。	多功宿の百姓の熊蔵が先導して、大聖寺の境内に百姓達を集め、村役の制止をきかず不穏の行動に出まじしたが、通りかかった官軍を取り押さえられる。	石仏地蔵、白鷺神社参道より常光坊に移設されたものと考えられる。	鳥羽・伏見の戦い	朝廷が王政復古の大号令を発す。	將軍慶喜が大政奉還を行う。	天狗党の乱が起こる。	米・蘭・露・英・仏と修好通商条約が結ばれる。	日米和親条約締結。	浦賀沖にペリー率いる東インド艦隊が、アメリカ大統領の国書をもって来航。	田村仁左衛門吉茂の「農業自得」が刊行される。	下野国誌が編纂される。	できごと